

来年4月に開幕する大阪、関西万博のボランティア募集に、目標の3倍となる応募者があつたとの報道がなされていた。

ボランティアとは、よく聞く言葉である。有償ボランティアもあるが、一般的には無償の奉仕活動が言い換えられて、日常的に使われている。

「スポーツボランティア」をインターネットで検索すると、エリートスポーツから、日常的なスポーツ活動をサポートする審判、運営委員など様々な内容が記載されている。わたしたちの身の回りにあるスポーツ大会が、多くの人の支えによって成り立っていることが分かる。スポー

スポーツボランティアの役割

ツの魅力には、スポーツを「する」「見る」だけでなく、「支える」という部分でも惹きつけるものがある。ボランティアの語源は、ラテン語の「ウオランタス」で自由意志、自主性を意味している。

を設けて会員の募集を呼びかけている。また奈良市にもボランティアに取り組むサークルを作って、日常は軽スポーツに取り組み、必要な情報を受けてボランティアに参加する仕組みになっている。

私は今から75年前（昭和24年）、新装な

「支える」が社会の力に

体や国際的スポーツ大会の運営を無償で支えたり、専門的能力を進んで提供する人を指す。国のスポーツ基本計画でも、ボランティアに国民が関心を高め、地域の発展に寄与できることを期待している。県でもスポーツボランティア登録制度

った橿原陸上競技場で開催された、第33回日本陸上競技選手権大会に、誘われて補助員として参加した。仕事は砂場の掘り起こしと、走り幅跳びを跳んだ選手の、着地後の砂をならす役割、今というボランティアであった。当時は、今ほどスポ

ら、ボランティアにも参加して、「支える」という役割を学んでいる。第1回大会から参加している奈良マラソンや、「50歳タッシュ」などの大会ボランティアのほか、月に一度行われる「奈良公園にゴミはあかん」などのス

スポーツ以外のボランティア活動にも参加して、「支える」行動を体験。「支える」輪の広がりは、社会にパワーをもたらす存在にな

っていくと考えられる。昨今、高齢化社会を迎えて、自分の健康は自分で守る自立した生活が求められるが、健



2018年の国際マスターズ陸上のボランティアの面々＝奈良市鴻ノ池陸上競技場

康づくりは、地域が繋（つな）がり支えあう街づくりにも期待されている。先月の新聞報道によると、国は今年1月、共生社会の実現を推進するための基本法を制定、9月を「認知症月間」、9月21日を「認知症の日」と定めて、国民の認知症への関心を求めようとしている。

認知症高齢者は年々増加している、年を取れば誰でも起こり得る現象。国は法を作って社会が全体で関わり、予防を進めようとしている。

高齢者のスポーツやボランティア参加は、認知症排除の効果が期待できる。「より速く、より高く、より強く」だけのスポーツでなく、スポーツが持つ社会的役割も認識して、日々取り組みなければならぬ。

Ⅱ第4土曜日掲載Ⅱ